

## 地域におけるアルコール依存症と自殺に関する研究

浜松医科大学健康社会医学講座

長谷川拓也、野田龍也、早坂信哉、村田千代栄、柴田陽介、菊地慶子  
船橋香緒里、安田孝子、山田友世、原岡智子、尾島俊之

浜松市精神保健福祉センター 高林智子、二宮貴至

### 1. 目的

本研究では浜松市におけるアルコール依存症の記述疫学像及び自殺念慮・抑うつ状態との関連を明らかにすることを目的とした。

### 2. 方法

2008年5月～6月に浜松市において、15～79歳までの全市民より無作為抽出し、自記式郵送法により「こころの健康と自殺対策に関するアンケート調査」を行った。アルコール依存症のスクリーニング用の自記式質問票であるCAGEテストを用いて、4項目のうち2項目以上当てはまる者をアルコール依存症とみなした。その性、年齢、勤務形態、職種、従事する産業、全従業員数、1週間の就業時間別の特性を解析した。また、アルコール依存症と、自殺念慮または抑うつ状態との関連を解析した。抑うつ状態は、CES-D (Center for Epidemiologic Studies Depression Scale) で16点以上とした。この解析はロジスティック回帰モデルを用いて、性及び年齢を調整し、オッズ比(95%信頼区間)を求めた。統計ソフトはSPSS15.0Jを用いた。

### 3. 結果

回収数は1051名(回収率54.5%、男女比43:57)であった。アルコール依存症の割合は全体で9.6%(男16.2%、女4.5%)で、年齢階級では男性では55-59歳(25.5%)、女性では45-49歳(10.6%)が多かった。職業等の状況別に見ると(男女別に20人以上対象者のいる属性のみ検討)、勤務形態では自営業(男性29.0%、女性11.9%)、職種ではサービス職(男性30.6%、女性10.2%)、従事する産業では男性は建設業(29.2%)、女性は飲食店・宿泊業(14.3%)、全従業員数は男性では1～9人(25.6%)、女性は300人以上(9.0%)、1週間の就業時間は男性では60～79時間(21.8%)、女性は40～48時間(7.3%)が多かった。

アルコール依存症がある場合のオッズ比は、この1年以内の自殺念慮3.08(1.66-5.72)、今までの自殺念慮3.64(2.12-6.25)、抑うつ状態2.49(1.52-4.07)であり、いずれも有意な関連が認められた。

### 4. 考察

先行研究同様に、アルコール依存症は男性に多く、自殺念慮や抑うつ状態との関連も認められた。地域での自殺およびうつ対策には併せてアルコール依存症の対策も必要と考えられた。

※第19回日本疫学会学術総会において発表